



三重県立熊野古道センターからのてがみ

"The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center"

2017.冬号
通号 No.45

雪の千枚田

日本の棚田

～丸山千枚田を考える～

人々をそう呼んだのです。丸山には、横井戸（小さなトンネル）があり、その奥で水脈に当たっています。鉾山の坑道堀の技術に通じるものがあります。周辺にたくさんあった銅山採掘の技術が転用されているかも知れません。石垣の積み方は、自然石をそのまま積み重ねた野面積みと割石積みです。屋敷まわりと比較すると、棚田の石組みは粗く力強い感じがします。

はたして田の枚数は、何枚あったのか。慶長六年（1601）の浅野氏が検地したときの田は七町一反八畝です。元禄十年（1697）には、2,240枚の田の枚数で1枚平均10坪あまりの広さです。明治三十一年（1898）の測量図によると、2,483枚記載されています。最小の田は、直径45cmくらいで三株の稲が植えられるのみです。平成四年（1992）には530枚まで減少しましたが保存会の努力で現在、1,340枚までに復活しています。

丸山のひな壇造成の総工費は20億円以上、延べ人数約93,600人との試算があります。貞享三年（1686）から元禄五年（1692）にかけての新田開発の願い書から、反あたり約300人を根拠としています。これは約312年の工期となります。面積の半分が中世までに形成され、近世に完成されたとしても長期にわたる想像を絶する営みに感動を覚える理由がここにあると思います。

＜参考文献＞
・紀和町史 / 上・下巻（紀和町教育委員会）
・棚田の謎 / 田村善次郎・TEM研究所（OM出版）

段々畑や千枚田の風景は、一朝一夕にできたものでなく日本の農民の何代にもわたる努力の結晶です。だから見る人を感動させ、人の心をあたたく包み込む力をもつものです。

棚田がいつ頃から見られるようになったかは、正確なことはわかりません。飛鳥の地・石舞台付近を支配していた蘇我氏や藤原氏など氏族がよりどころとしていた狭い谷間には、標高差に応じて小区画の棚田になった湿地が拓かれ、平坦地は原野であったようです。「棚田」が文書で初出するのは、高野山文書の応永十三年（1406）であり、高野山安楽川庄高ノ村の谷間にある小区画の水田は、元々は「糯田」と呼ばれていました。室町前期には斜面に階段状に拓かれ、形状が棚田に似ていることから棚田というようになったと記述されています。

さて、丸山千枚田についてその造成技術に視点を当てると黒鍬さんといわれる職人集団が丸山の棚田と約80kmに及ぶ畦の石垣を造ったとされています。黒鍬さんとは、石垣を積む石工職人のことで水路や溝石や石塔を彫り、神社や屋敷、耕地の畦などの石垣を造り、農閑期には北山地方や吉野川上流域、奈良盆地まで出稼ぎをした

熊野古道センター
-29.12.10
KODO CENTER

熊野古道からの
てがみ

45 通目

連鶴

連鶴は、十年ほど前、熊野市所有のバスの運転手を務めていた時、待機時間が長く時間を持て余していた私に、家内が連鶴の本を購入してくれたのが始まりでした。紙の裏に展開図を書き、線に沿って切り込みを入れて順に折っていくのですが、簡単でもありながら形の面白さにのめりこんでしまいました。連鶴は千八百年ごろから桑名市に伝わる無形文化財ですがあまり知られていないようです。実際に四十九種類の鶴を折ってみるのに約二年かかりました。連鶴は長方形の紙でも折りますし、紙の材質により非常に折りにくい物も有りました。折っていくうちに自分で折り方や形、鶴の数など考案できるのも連鶴の面白いところです。熊野市飛鳥町の小中学校で連鶴教室を行っています。生徒たちも全員が集中して折っているため大変静かな授業になります。出来上がった連鶴は敬老会などで米寿にいられたお年寄りにプレゼントされ大変喜んでいただいています。



と、思う形の紙から鶴が折れ、その形が面白い事や、羽ばたく鶴が折れて羽がうまく動くことに子供たちが喜んでくれるのが楽しみです。折る前の展開図をパソコンで作るなどまだまだ飽きない作業です。

八月末に、友達がアメリカオレゴン州の方を案内して連鶴を見て我が家に来てくれました。お土産は連鶴と展開図でした。

で変形鶴があること知りました。それは内接円がある四角形ならば鶴が折れるということ。鶴を折る紙は正方形が常識ですが、平行四辺形など常識では折れない

筆リレー

次は御浜町の
塩崎 哲哉さん



たきつめ きよし
滝爪 清さん
(熊野市)
趣味で連鶴を折ります。
小・中学校で連鶴教室も
行っています。

花尻薫からの季節のたより No.45

日本の正月には、「松竹梅」や「福寿草」とともに赤い実をつけたヤブコウジが家庭の生け花に使用されていました。

これらは、全国の山地に自生していますが、古くから日本の庭園に下草として栽植されています。果実は晩秋にあざやかな紅色に熟し、寒い冬の間も、そのまま落ちずに残っています。美しいため正月の飾りに使われるようになったのだろつとされています。分布は北海道の奥尻島から本州・四国・九州で、山地の木陰に生える小形の低木です。



ヤブコウジ
サクランボ科

ヤブコウジの名は藪の中に生えて、葉の形も果実もコウジ（日本名では、観賞用に植えられ、赤い果実をつけるカラタチバナという種類）に似ているからであると言われています。古くはヤマタチバナまたは、アカダマノキともよばれています。ヤブコウジのかわいらしい果実はスイカズラ科のガズミの果実と共に、山の小鳥を生け捕る餌として使用されたので、なつかしい思い出になっています。ヤブコウジは方言も多く、ヤマリンゴ・チンチロモモ・コウジ・コウジリンゴ・ヤマミカンなどがあります。

熊野古道の日のよく照る道ばたに多く、注意して歩くとよく見かけます。

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください！

お母ちゃんの
ランチバイキング

営業時間: 11:00~14:00
料 金: 中学生以上1,200円
小学生以上700円
4歳~小学生300円
4歳未満無料
60歳以上1,000円

尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00
入 浴 料: 一般 600円
65歳以上 500円
4歳~小学生 300円
4歳未満 無料

お風呂がけり、カフェでゆったり♪
営業時間: 9:00~17:00
(カフェラストオーダー 16:30)

毎月26日は風呂の日！お子様は通常300円が100円でご入浴できます。

●お車で越しの方は...
尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルピオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分)

●電車で越しの方は...
JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター」下車
尾鷲駅
→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(約2時間)

熊野古道センターニュースレター

- 熊野古道センターからのてがみ
●2017年 冬号●
- 発行日:2017年12月10日(季刊)
 - 編集・発行:三重県立熊野古道センター
(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
 - 編集担当:藤本
 - 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com
HP <http://www.kumanokodocenter.com/>
 - 開館時間:午前9時~午後5時
 - 入場料:無料
 - 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道 伊勢路 通行止めのお知らせ
熊野古道伊勢路の以下の峠道が通行止めとなっております。
「横垣峠道」
(南牟婁郡御浜町阪本地区~神木地区)
※平成29年12月10日現在
60000171210MF

その他
Guide&Tips

東紀州の
うまいもん!

からすみ

尾鷲地方は古くより鱈漁が盛んで、江戸時代には「熊野鱈」は品質が高いことで知られ、寛政11年(1799)に紀州藩江戸藩邸に尾鷲産のからすみが献上されたといわれています。からすみは、良質な鱈の卵巣を抜き取った後、水洗いと塩漬を何度も繰り返したり、表面の脂を拭き取ったりしながら、幾日も天日干しするなど、大変な手間暇をかけて作られる高級珍味です。程よい塩加減でねっとりチーズのような味わいと食感で、そのままスライスして酒の肴にしたり、贅沢にお茶漬やスパゲティに混ぜたりして食べます。



天日干し本からすみ

三重県立熊野古道センター休館日のお知らせ

3/13 火

3/14 水

の2日間

はメンテナンスのため

全館休館いたします。

3/13 火

3/14 水

の2日間

はメンテナンスのため

全館休館いたします。

体験教室

お正月スペシャル 体験教室

恒例の餅つき大会や風づくり、紙飛行機づくりに折り紙体験など、お正月はご家族そろって熊野古道センターへGO!

2 火 連凧つくり体験

時間: 午前10時~12時 / 午後13時半~15時半
参加料: 200円
定員: 午前15名・午後15名(要申込・応募多数は抽選)
場所: 体験学習室
講師: 熊野古道センター職員



3 水 紙飛行機つくり体験

時間: 午前10時~12時 / 午後1時~3時
参加料: 200円(事前申込不要)
場所: 交流棟大ホール・芝生広場
講師: 熊野古道センター職員

3 水 餅つき体験

時間: 午後1時~2時頃
参加料: 無料(事前申込不要) ※無くなり次第終了
場所: 交流棟小ホール
協力: 芳向会のみなさま



3 水 千支(戌)折り紙の飾り物つくり体験

時間: 午後1時~3時受付
参加料: 300円
定員: 30名(事前申込不要・先着順)
講師: 折り紙サークルのみなさま

和歌山県世界遺産センター からのお知らせ

秋晴れの爽やかな季節、9月~12月には熊野参詣道へ国内外から多くの方がお見えになり、当センターもご利用いただきました。参詣道保全活動「道普請」にも下記のように多くの皆様にご参加いただきました。

また、9月~翌年2月にかけて、和歌山県世界遺産協議会(事務局:和歌山県世界遺産センター)では、次世代を担う子どもたちへの世界遺産教育として、次世代育成事業を実施しています。この事業は、世界遺産講座(座学)と現地学習を通して、世界遺産の大切さや紀伊山地の霊場と参詣道への理解が深まるように、和歌山県内の児童・生徒への学習支援を行うものです。参加校の中には、現地学習のなかで道普請(土入れ作業等)をして、児童生徒が直接、参詣道の保全に関わる学校もあります。平成29年度次世代育成事業実施予定校数は24校です。

※保全活動・世界遺産セミナーについては、和歌山県世界遺産センター(0735-42-1044)までお問い合わせください。

第4回世界遺産セミナー(予定)

12/10(日) 14:00~16:00

内容: 熊野地域の魅力あふれる近代の建造物(新宮から田辺)
講師: 西山 修司氏(和歌山県教育委員会文化遺産課長)
場所: 串本文化センター(和歌山県東牟婁郡串本町2427)

道普請とは

文化財保護専門職員による指導のもと、参詣道の保全活動(土入れ・草刈り・清掃等)を行っていただくものです。ボランティア活動・CSR活動として、毎年、多くの皆さまに参加していただいています。

平成29年9月~12月の道普請参加団体(敬称略)
新明和工業株式会社、金剛寺職員組合、サンスター株式会社、和歌山県情報政策推進ファーム・ツアー、和歌山県立新宮高等学校、和歌山県立白旗高等学校附属中学校、和歌山県立南宮高等学校、和歌山県立三輪高等学校、和歌山県立白旗マリアットホテル、さわやか一般財団法人、富士通株式会社、和歌山県立東山小学校、和歌山県立少年院、ファミツアー、JAL、田辺市立本宮中学校、和歌山県損害保険代理店協会、西日本旅客鉄道(株)和歌山支社

参詣道保全活動(道普請)及び世界遺産セミナーに関するお問い合わせは **和歌山県世界遺産センター TEL.0735-42-1044** までお願いいたします。
住所: 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 FAX: 0735-42-1560 E-mail: e0624002@pref.wakayama.lg.jp

旬の企画展
Event Info.

企画展 集落展 文脈のカタチ 紀伊半島にみる漁村空間

尾鷲市九鬼町や須賀利などの漁村集落に住む人々の営みが創りだす造形、日本の風土から立ち上がる集落の美しさの断片を、写真や地形模型・図面などで紹介する企画展を開催します。

会期: 平成29年12月2日(土)~平成30年1月21日(日)
※12月31日及び1月1日は休館
時間: 午前9時~午後5時 入場料: 無料
場所: 企画展示室

付属事業① 講演会 建築学から見た漁村集落

演題① 建築学から見た漁村集落
演題② 路地空間の魅力

日時: 平成29年12月17日(日)
時間: 午前10時~11時30分(開場: 午前9時30分)
参加料: 無料
定員: 80名(要申込・先着順)
場所: 映像ホール
講師: 演題① 下田 元毅氏(大阪大学助教) 演題② 宮崎 篤徳氏(関西大学研究員)

付属事業② ギャラリートーク 海のコモンズからのまなざし

演題① 海のコモンズからのまなざし
演題② 水の佇まいと漁村

日時: 平成30年1月20日(土)
時間: 午後2時~3時30分(開場: 午後1時30分)
参加料: 無料
定員: 80名(要申込・先着順)
場所: 映像ホール
講師: 演題① 下田 元毅氏(大阪大学助教) 演題② 宮崎 篤徳氏(関西大学研究員)

受付期間: 12/20~1/13

企画展 わが町ふるさと 紀和町

熊野の各地域の歴史や文化、暮らしを紹介する企画展の第一弾として、熊野市紀和町を取り上げ、展示紹介します。

会期: 平成30年2月3日(土)~3月11日(日)
※会期中無休
時間: 午前9時~午後5時
入場料: 無料
場所: 企画展示室
※会期中付属イベントあり

特別展示室 企画展 透明水彩画 教室作品展

講師に熊野市出身の画家、新谷武文氏を迎え、4回にわたり開催した「透明水彩画スケッチツアー~熊野を描く」の成果発表として、参加者が描いた作品を展示します。

会期: 平成30年1月20日(土)~3月25日(日)
※会期中無休
時間: 午前10時~午後5時
入場料: 無料
場所: 特別展示室

木工模型展 今、蘇る 白鳳伽藍

松阪市在住の戸川明さんが設計・製作した奈良薬師寺金堂と西塔、そして製作中の東塔を展示します。また、製作過程を撮影した写真や設計図も合わせて展示します。

会期: 平成30年1月2日(火)~2月18日(日)
時間: 午前9時~午後5時 ※会期中無休
入場料: 無料
場所: 展示棟ホール
製作者: 戸川 明氏

講座・講演 12/17(日) 講演会 “川の吉野”と“雪の吉野”から“花の吉野”へ

‘一目千本’と呼ばれ桜の名所として親しまれる奈良吉野山。この“花の吉野”の成り立ちを、記紀万葉時代以降に謳われた詩歌などの資料をもとに解き明かし、吉野山の魅力に迫ります。

時間: 午後1時30分~午後3時
参加料: 無料
定員: 80名(要申込・先着順)
場所: 映像ホール
講師: 池田 淳氏(吉野町教育委員会事務局主幹兼吉野歴史資料館長)

体験教室 12/24(日) 東紀州のクリスマスプレート

東紀州の旬の食材や特産品を使った大人気の料理教室です。季節に合ったレシピを紹介し、調理のコツや裏ワザだけでなく、東紀州の食材について学べるのもこの教室の魅力です。楽しく学んだ後は、みんなで美味しくいただきます。

時間: 午前10時~午後1時
参加料: 各2,000円
定員: 各24名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所: 体験学習室
講師: 村林 新吾氏(三重県立相可高校食物調理科教師)

12/14(日) 11/17(日) 2/11(日)

2/3(土) 講演会 熊野の神々と仏たち~熊野三山を中心にして~

日本の風土に根付いていた神仏習合の世界が崩された明治のころ、那智山の神仏分離についてお話しします。

時間: 午後1時30分~3時(開場: 午後1時)
参加料: 無料
定員: 80名(要申込・先着順)
場所: 映像ホール
講師: 川端 守(三重県立熊野古道センター長)

熊野古道自然学校 1/13(土) 銚子川河口で冬鳥を見つけよう!

温暖な熊野灘沿岸では越冬のため南下してくる鳥たちを観察することができます。観察会を通して、地域の自然環境についても学びます。

時間: 午前10時~12時
参加料: 500円(保険料・資料代含む)
定員: 15名(要申込・応募多数の場合抽選)
場所: 銚子川河口(紀北町) ※現地集合
講師: 中井 節二氏(日本野鳥の会三重)

雨天の場合 1/14(日)に延期

ワンコイン in 尾鷲 2018 2/1(木) コンサート

出演 **ハープ 景山梨乃**
~世界が注目するハープの申し子~

時間: 午前11時30分~午後12時30分
入場券価格は 12/8より 午前9時から
入場料: 500円(要入場券・先着順) お食事割引 特典付き
定員: 200名
場所: 交流棟 大ホール

わくわく 日曜ものづくり体験教室

東紀州で活躍中の職人や工芸家を講師に迎えて、毎週日曜日に開催している体験教室です。事前予約不要で、小さいお子様から大人まで気軽に楽しんでいただけます。

時間: 午後1時~3時受付
参加料: 100円~(※体験によって異なります)
場所: 交流棟ロビー
講師: 大形 弥生氏、村川 実氏、竹内 健悟氏、中井 智章氏、吉田 誠人氏、熊野古道センター職員